

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
154	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Preventing alcohol-exposed pregnancies: a randomized controlled trial. アルコール暴露妊娠を防ぐ ランダム化比較試験	
執筆者	
Floyd RL, Sobell M, Velasquez MM, Ingersoll K, Nettleman M, Sobell L, Mullen PD, Ceperich S, von Sternberg K, Bolton B, Johnson K, Skarpness B, Nagaraja J; Project CHOICES Efficacy Study Group.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Am J Prev Med. 2007 Jan;32(1):1-10.	
キーワード	
簡単な動機付け介入、危険飲酒、効果のない避妊方法、ランダム化比較試験	
<p><b>要 旨</b></p> <p>背景：アメリカ合衆国では、出生前のアルコールによる暴露は、先天性欠損と発育障害の予防可能な原因の最大のものである。</p> <p>研究デザイン：アルコール暴露妊娠の危険性を減らすことを目標とした、妊娠していない女性を対象とするランダム化比較試験である。介入は危険飲酒と効果のない避妊法に焦点をあてた簡単な動機付けである。(2002-2005年に実施、2005-2006年に解析)</p> <p>方法と対象：フロリダ、テキサス、ヴァージニア州の6つの拠点（地域の刑務所、薬物・アルコール治療センター、婦人科診療所、メディケード健康保持機関、メディアなど）で募集した、現時点でアルコール暴露妊娠の危険が高いと思われる18-44歳の妊娠していない女性、830人を対象とした。この対象集団は、アメリカの一般人口（2%）に比較して、アルコール暴露妊娠の危険が高い女性の割合が大きい（12.5%）。</p> <p>介入方法：対象者をランダムに、簡単な動機付け介入を受ける群（416人）と情報だけをもらう群（414人）に割り付けた。介入方法は4回のカウンセリングと1回の避妊相談と訪問サービスである。</p> <p>結果判定の方法：1日5ドリンク以上、または平均して週8ドリンク以上の飲酒を危険飲酒者とした。また有効な避妊をせずに性交渉を持った場合を妊娠危険者とした。反対に、それらのいずれかまたは両方を満たさない状態をアルコール暴露妊娠の危険が少ない状態と判断した。</p> <p>結果：観察期間を通して、介入群のアルコール暴露妊娠の危険者は対象群に比較して減少率が2倍であった。介入群におけるアルコール暴露妊娠の危険者の減少についてのオッズ比は、3ヶ月の観察で2.13(95%信頼区間は1.69-3.20)、6ヶ月で2.15(1.52-3.06)、9ヶ月で2.11(1.47-3.03)であった。それぞれの時期の両群のアルコール暴露妊娠の危険者の差は、18.0%、17.0%、14.8%であった。</p> <p>まとめ：簡単な動機付け介入はアルコール暴露妊娠の危険性を減少させることができる。</p>	